Uwasamon

う・わ・さ・も・ん。 若者応援

～益城の若もんも、がまだしよっぱい！～

頑張っているもの

神楽（木山肥後神楽）

名前　渡邊（わたなべ） 怜（れい） さん（14）
行政区　寺迫　（木山中学校３年生、後列右）

名前　渕上（ふちがみ） 悟美（さとみ） さん（14）
行政区　平田西　（木山中学校３年生、後列左）

名前　木村（きむら） 優花（ゆか） さん（12）
行政区　惣領１町内　（益城中学校１年生、前列左）

名前　吉住（よしずみ） 颯佳（そうか） さん（12）
行政区　惣領１町内　（益城中学校１年生、前列右）

所属／益城神楽子ども教室

神社の社殿に〝シャン、シャン〟と鈴の音が鳴り響く。中には、狩衣（かりぎぬ）・千早（ちはや）に袴（はかま）をまとい、優美に舞う人の姿。南北朝時代に始まったといわれる「木山肥後神楽」を伝承する渡邊怜さん、渕上悟美さん、木村優花さん、吉住颯佳さんの４人だ。

舞台に立っても「緊張はしません」と言う渕上さんと渡邊さん。さすがに３年生、頼もしい存在だ。一方、「やっぱり緊張します」と話すのは吉住さんと木村さん。まだあどけなさが残るが、小学１年生の頃に神楽を始めたといい、経験は長い。

始めるきっかけは、「指導者にスカウトされた」（渡邊さん）、「興味があった」（渕上さん）、「友だちに誘われた」（木村さん）、「おばあちゃんに勧められた」（吉住さん）とさまざまだが、今では「伝統文化を受け継ぐことに、とてもやりがいを感じている」（渕上さん）と、みんなの思いは同じだ。

「神楽を舞う時は、ぶつからないよう間合いを取ることと、息を合わせるのが難しい」（吉住さん）が、「みんなでやっていると楽しいので、ここまで続けてこられた」（木村さん）という。みんなそれぞれに部活動や学習塾もあり、練習時間が十分に取れないため、特に〝出番〟前には自宅でも練習を積んでいる。

今の目標はと問うと、「先輩たちが守ってきた伝統神事を、自分たちがしっかりと後輩たちに引き継いでいくことで、地域の活性化につなげていきたい」と答える渡邊さんの言葉にそろってうなずく３人。みんな控えめな話しぶりだが、その瞳の奥には静かな情熱が垣間見えた。

問い合わせ先　役場秘書広報課広報係　☎ 286-3111／内 203　FAX 286-4523　M kouhou@town.mashiki.lg.jp